

子どもたちと共に

鴻巣市立鴻巣南小学校 教諭
笹岡 智聡

■ 初任者研修

四月、小学校二年生二五名の子どもたちと出会い、私の教員生活がスタートしました。子どもたちと共に過ごす中で、日々小さくさまざまな事件があつて、喜んだり落ち込んだりの毎日です。

さて、初任者は、年間一八〇時間以上の研修をしなければなりません。週のうち一日は校外で行なう機関研修です。機関研修は、他の初任者と学校での失敗、子どもたちが喜んだ実践、悩みなどを話し合い、お互いに励まし合う貴重な時間です。私も他の初任者と話し合う中で学習の進捗を確認したり、給食準備を円滑する指導についてアドバイスを受けました。また、一日学校にいないので、翌日は新たな気持ちで子どもたちに接することができます。

■ 全員がわかる授業を！

初任者は、指導力向上のためおよそ週に一回のペースで研究授業を行います。そして、授業後は、私の教材研究が不十分であったり、発問が適当でなかったりとたくさん課題が浮き彫りになります。それを次の授業に活かして、全員がわかる授業ができるよう試行錯誤



読み方を工夫して。
音読発表会

誤を繰り返しています。

子どもたちは、まさに十人十色、理解のスピードや程度も本場にさまざまです。丁寧に指導しているつもりでも、全く理解できていないこともあり、そんなとき、つい子どものせいにしてしまいたくなります。しかし、わからない子どもがいれば、それは私の方に問題があると思うべきであると、この数ヶ月間で学びました。子どもがわかるように指導することが教師の仕事です。そのためには、教材研究はもちろんのこと、子どもたち一人一人の実態を把握し、それぞれの子どものたとえ信頼し合える人間関係を築かなければなりません。私が一緒に過ごす時間は、日々成長する子どもたちの大切な時間であることを自覚して、毎日を真剣勝負で子どもたちと関わっていくと思っています。

これ、これ

すばらしい 出会いの数々

天理市立山の辺小学校・教諭
藤原 克巳

■ 高校教員を目指して

高校生のとき所属した剣道部の監督にあこがれ、高校教員を目指して奈良教育大学に入学しました。大学には将来を語り合える良き先生、良き友がいました。在学中に、小中学生のいじめや自殺が連日のように報道され、どうすればよいのだろうと考えるうちに、小学校教員の道を選んでいました。

■ 子どもたちに囲まれて

私は子どもと一緒に遊ぶことが大切だと思っています。遊びを通して子どもとの信頼関係を築き、その上で様々な指導を行うのが効果的だと思っています。現在、三十二歳ですが、真夏の炎天下の運動場から「先生遊ば。」と声をかけられると、「ぎよえー。」と思うことも増えました。「そんなことでいいのかがんばれ！」と自身を叱咤激励しながら、足取り重くも、満面の笑みで外に出て行く日々です。

子どもたちの素直さを源とするエネルギーには本当に感心させられます。日々の音読練習で、たくさん詩を暗誦できるようなりました。何度も何度も描き直して、すばらしい絵を仕上げました。水に顔をつけるのも精一杯だった

■ 剣道部の監督

子が、十メートルも泳げるようになりました。大人ならこんなに素直に、いろいろなことを吸収できるかなあと思っています。そんな子どもたちに囲まれ、毎日様々な感動に出会いながら生活できることを、幸せに感じています。

大学でも剣道部に所属した私は、故・乾邦政先生に指導を受けました。先生は暖かく大きな心で、剣道だけでなく、人生の歩み方までお手本を示してくださいました。大学を卒業してからも、しばしば学生時代と同じように指導をしていただきました。先生が亡くなられた数ヶ月前、奇しくも私の誕生日にあたる四月二十日。その日が先生との最後の稽古となりました。稽古後、先生から監督を受け継ぐようお話があり、力不足ながら受諾しました。そして、現在も週に二回は奈教に足を運んでいます。道場で学生とともに汗を流すのが私の仕事以外での最高の楽しみです。



乾邦政先生と（左から2番目）

今の気持ち を忘れずに

泉州銀行本店営業部 福原 伸子

■ 銀行の仕事

私は、今年の四月から泉州銀行で働いています。銀行業務には、大きく三つに分けて「預金業務」、「融資業務」、そして「為替業務」とありますが、現在私は振込等をする「為替」を担当しています。この泉州銀行で働こうと思った動機は、大阪が大好きなのでその大好きな地域やその地域の人たちと関わりながら仕事をしていきたいと思っただけです。毎日、先輩や上司の方々に様々なことを教えていただきながら働いています。



同じ係の先輩と(向かって右)

■ 失敗の毎日

入行前に通信教育で銀行業務について少し勉強しましたが、金融に関する知識がほとんどなかった私にとって入行してからは戸惑ってばかりの毎日でした。マンツーマンの先輩や同じ係の先輩に毎日少しずついろいろなことを教えていただいても自分の中で消化できず、同じことを何度も聞いたり、勘違いや確認不足などから失敗したりしていました。失敗して落ち込んだりもしますが、引きずってしまつてさらに失敗につながつてはいけませんので、仕事に関しては前向きにプラス思考で考えるようにしています。

■ 仕事で必要なこと

最近では、少しずつですが仕事にも慣れてきました。様々な処理について教えていただき、始めはそのオペレーションをこなすだけで精一杯ですが、間違えず一人でオペレーションできるようにになったら、その作業は銀行業務の中で一体どんな役割があるのかを考え、仕事を一つの流れとして考えるようにしています。そうすることによって仕事を自分のものにしていくことができるからです。私が仕事をする上で必要だと思うものは人とのつながりであり、先輩、上司、家族、友達など、いろいろな人に助けられながら毎日仕事をする事ができるのだと思います。何年経つても今の気持ちを忘れずに仕事に励みたいと思います。

あ ・ と ・ ひ

プロフェッショナルとして

栗東郵便局貯金保険課 藤上 俊樹

■ 大きな責任

今年の四月より郵便局員として滋賀県栗東市の栗東郵便局に勤務しています。バイクに乗ってお客様のもとへ訪れ、貯金や保険の集金や手続き、そして営業を行なうことが私の主な仕事です。現場に出て約三ヶ月が経とうとしています。未だに分からないことだらけで毎日慌てているのが現状です。

貯金と保険共に、お客様が今まで苦労して積み上げてきた大切な財産を取り扱う業務です。それはもちろん膨大な額であり、仕事では常に自分自身に大きな責任が付きまとい、このことを意識し続け、細心の注意をはらい適正な取扱処理を心掛けています。

■ お客様と接する日々

新規採用の職員としてまず最初にするべき仕事は、自分の担当する区域のお客様に顔と名前を覚えてもらうことでした。お客様との良好な関係がなければ信頼は生まれません。膨大な額のお金を預かるこの仕事では、信頼が何よりも重要なものになると私は思います。お客様に親しみを持ってもらえるようにと心掛けてきた結果、道で声をかけてもらったり、貯金や保険の相談を受けるようになってきました。

しかし、お客様を相手にする仕事なのでもちろん楽しいことばかりではあ



朝のバイク点検の様子(向かって右端)

りません。自分の知識のなさや要領の悪さからお客様に大きな迷惑をかける郵便局に対する不信感を抱かせてしまうこともあります。お客様から見れば新人もベテランも全く関係ありません。郵便局という看板を背負って仕事をす以上、プロフェッショナルとして業務をこなしていかなければならないのです。

金融機関の職員としてまだまだ知識も経験も乏しい私ですが、そんな私を信頼して郵便局の商品を利用していただくお客様がいます。そのお客様の信頼と満足に応えるために今後も私は精一杯の努力をし続けていこうと思っています。